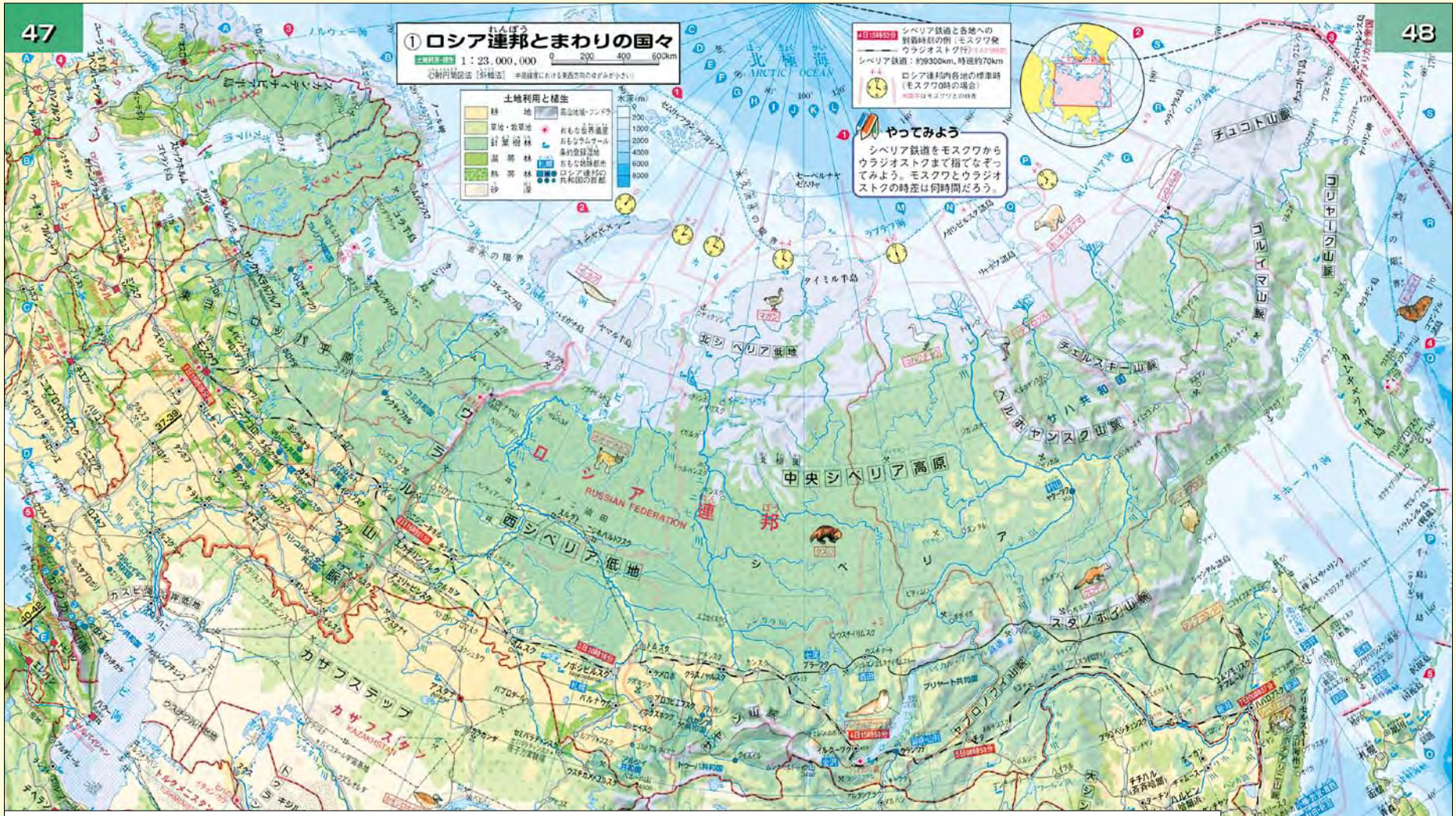

「ロシア連邦とまわりの国々」では、ロシアの自然と生活の特色を理解できるよう、図取り・表現・内容を工夫しています。まず、日本を図取りの右端に載せることにより、ロシアの国土の大半が北海道よりも北に位置していることが捉えられるようにしています。また、「土地利用と植生」の表現を用いることにより、北から「ツンドラ」「針葉樹林」「耕地」「草地・牧草地」の順で横縞模様に分布するロシアの気候・風土の特色を視覚的に捉えることができるようにしています。ここからさらに、ロシアの国土の多くが「針葉樹林」で占められていること、食料生産で重要な「耕地」は南の地域に偏っていて、ロシアの国土の中ではわずかであることなどの特色が捉えられます。あわせて、「耕地」の分布地域には主要都市や交通などが集中していることを読み取ることで、この地域がロシアの経済活動では重要な場所であることまで理解できます。さらに、ロシアがいかに広大であるのかが理解できるよう、九つの等時帯の境界線と標準時を示しています。たとえば、モスクワが午前０時のとき、シベリアのヤクーツクの時刻が一目でわかるよう、午前６時を示す時計の記号を掲載しています。また、シベリア鉄道でモスクワからウラジオストクへ向かう際の主要都市への到着時刻も掲載し、「地図旅行」でロシアの広大さを実感できるように配慮しています。　（帝国書院編集部）